

森の通信

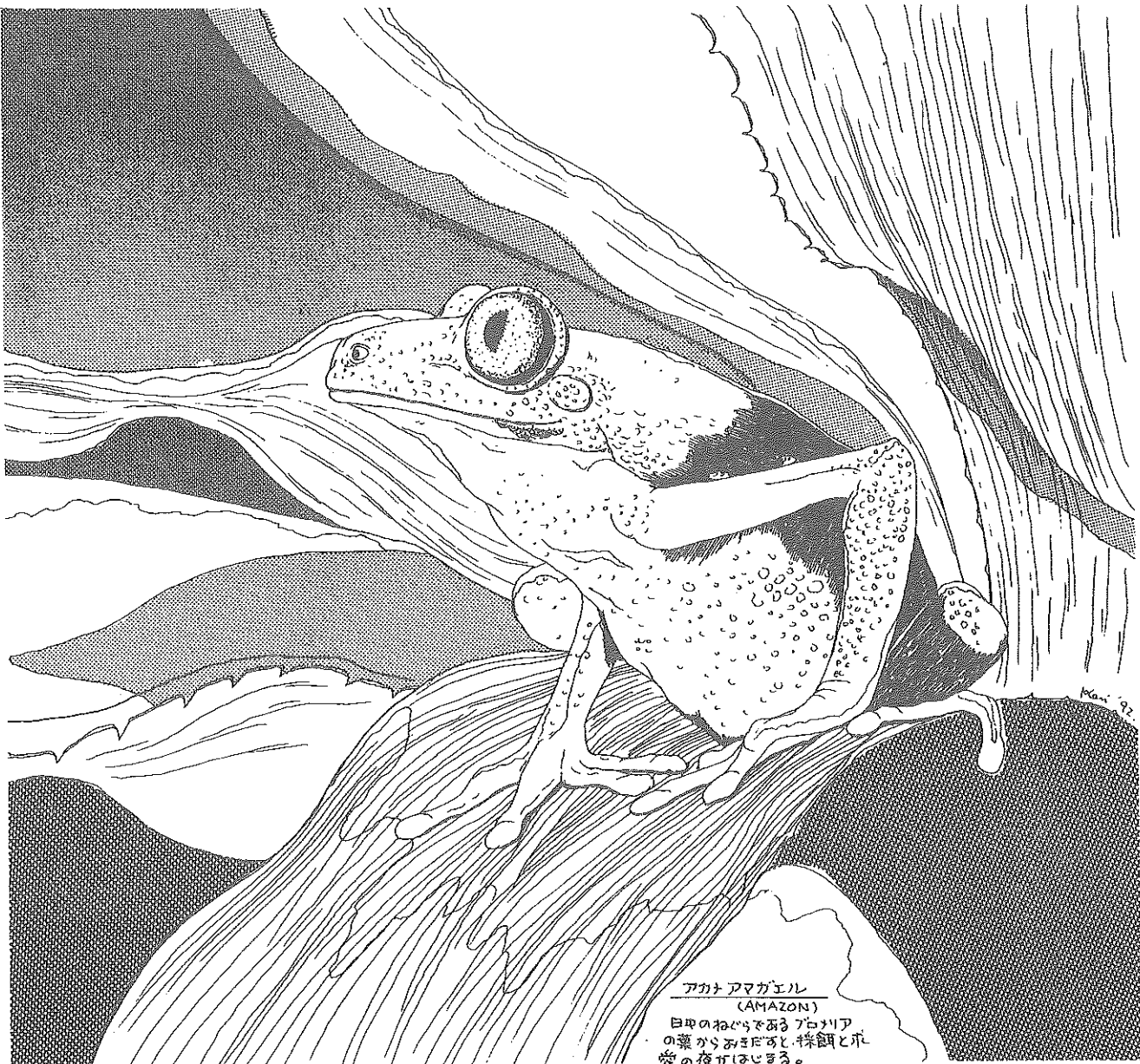
ウータン

SAVE THE TROPICAL FORESTS

25

HUTAN

1992年10月6日発行



アカナアマガエル
(AMAZON)
日甲のねこであるアマガエルの葉からみまわす。株頭とホウの役ははじまる。

ウータン・森と生活を考える会

〒530 大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館308号「関西市民連合」事務所気付
phone 06-372-1561

【一部】200円

【年会費】2000円

【郵便振替】大阪3-3880

everybody 毎度 on The 熱帯林!

STAFF 号切り一吉
なごも

相手にアゲを取らぬいで一方的に物を頂戴する事を、人間のことはで「どうほう」という。ならば、樹を切り尽くす事や、野性生物を殺し尽くす事も、命に対する「どうほう」だろう。

緑に守られているという事実、水に守られているという事実、おてんとうさんに守られているという事実、土に守られているという事実……人間が自己意識の中で完全に蓋をしている、事実。

たかが盛長類。長い事人間や、てると、此処の所を忘れてしまう。どうして、他のまき物と一線を引きたがり、特別を在りたがるんだろう？ 不慮だ。

まき物達を殺すだけ殺しとして、逆にどれだけの命をまかして返しているのか。(相手が「人間でない」だけで盗みや殺しも正当化するなんて、感性疑うよ。恥知らずだねえ、これ「ほう」の誇りも、ありやしない)

自分やウータンに在る意味、それは、環境「保護」でもない、熱帯林を「守る」訳でもない。負債を返しているだけだ。地球への。鳥や虫や魚や獣やみどりへの。まきとしまきる、全てのものへの。

熱帯の樹々は推定で四百歳のものもあるという。そうしてどういった歳のもの程商品価値が高く、どんどん切られていくという。四百年分の敬意をこめて、四百年分の意味を持って、自分は、その樹を使っているのか。口くたばる時はまちまちと返して、逝きたいものだ。⑤

【たのび盛長類の、誇りーウー風 (who)】

ウータン活動報告



- 92719 講演「シベリヤの森の危機」参加。辻村
- 731 ウータン、大阪府と話し合い、午後門真、八尾、藤井寺市と話し合い。八尾市は25%削減案を表明。「熱帯林保全のための再度の要望書」を府下自治体に送付。
- 83 羽曳野、松原市と話し合い。松原市は削減を表明。
- 839 PHD協会と丹波で「核打旅」を
- 8416 草刈十字軍に参加。篠宮
- 811「アマゾンが世界を変える」報告会
報告：伊藤修氏、大西裕子弁護士
- 910 貝塚、岸和田市「要望書」の回答送付。
- 912 大東市、「要望書」回答送付。
- 912 大阪YW「ピースフェスティバル」参加
- 918 藤井寺市、削減を表明。同市議会で、「熱帯林保全に関する意見書」採択
- 919 第三世界フォーラム、ODA分科会等に参加。

森の通信

HUTAN 25号 目次

CONTENTS

- 自治体キャンペーン 大阪版⑧……3
- 「アマゾンに牛はいません」……6
8・11 議会 伊藤修 さん 報告
- ウータンに届いたみ便り……9 下段
- 世界の森から⑥
「ネパールを見たい」……10
- 地球にあざい暮らし
「なせ牛乳パックの回収」……12
- 「草刈十字軍」に参加して……13
- インフォメーション
「アコースティック・ジャズ・ナイト」……14
- ウータン・アート・ギャラリー……15
「森喜久石」

※表紙のイラストは、「滅びゆく樂園」より書き下ろしをいただきました。(N)

熱帯木材不使用へむけて

自治体キャンペーン経過報告⑧

削減！ やったあー！ 八尾、松原、藤井寺市でも



事務局長・西岡良夫

《府市町村主務者会議は肩すかしや》

六月中旬、大阪府下自治体の熱帯木材を扱う部局が一同に揃って六月末に会議するという情報が入った。今度こそ府が各自治体を指導して熱帯木材の使用削減に向かうと胸ふくらませた。

ところが七月始めになってもその情報が入らず、話し合いを申入れてた大阪府からも連絡が来ない。しゃーないから、ウータン事務局で話し合つて、各自治体へもう一回『熱帯林保全のための要望書』を七月末に出すことを決めた。

やっと連絡が来て七月三十一日、大阪府庁へ行く。担当者はまた変わって、応対してくれたのは川上主幹他二名。

私達は開口一番「六月末の府下担当者会議で何か決まりましたか」と聞く。府側は「六月末日の営繕主務者会議で

大阪市、大阪府、堺市の削減案について各々発表しただけです。二十年前から主務者会議があり、研修だけです。」

一同ドテーっと椅子からずり落ちる。期待したワテらがアホやったんか。

「大阪府は削減政策の基本方針の一つに市町村や業界に使用抑制を呼びかける、と書いてたやろ」と言うと、府は、「まあそうですけど、府は各自治体への通達は削減という権限がないのです。各自治体が府のように削減して欲しいというのが府の考えです。今年度使用削減について、夕陽丘高校と寝屋川高専の改築に取り組みます」と。「しゃーない、行政は遅れるのが常日頃や」とウータンのみんな口にする。

《門真、八尾、藤井寺市への申入れ》
昼からまず門真市へ向かう。事務局

の永田さんらが住む街だ。永田さんいわく、「ごっつい保守的な所やねん。周りの市が変わらへんかったら、ここは変わらへんねん。」一同爆笑。

ある会派の議員に大阪府下の熱帯木材使用削減の状況を話し、機会を見て市議会でも論議してもらおうと伝える。それから秘書課へ「使用削減」を申し入れる。

「この調子やったら、文書回答がええほうやな」と。だが、締切の九月十日にも門真市から回答は無い。

府のモデル工事を見てから、八尾市へと。八尾市役所は庁舎建て替えのため移転して、プレハブだった。新庁舎の建設は来年からだ。

八尾市は、自治振興、建築部局の課長らが応対。八尾市はのっけから「大西先生、お世話になってます」と。

大西弁護士いわく「時々住んでる八尾市民やけど、儲からない行政相談もしてるから……。」

八尾市は丁寧な対応での回答だった。「①新庁舎の大規模改造については、庁舎準備室等で進めています。②新庁舎は、熱帯木材使用削減についてコンパネの型枠を減らし、鋼製型枠を使用し、スラブはデッキプレートです。プレキャスト工法を主に用いる予定です。③熱帯材使用削減は二五％になる予定です。」と簡易文書をくれた。

「ちよつと使用削減幅が小さいネ。もつと増やさねば、サラワクの森がなくなるのヨ。」と鋭い大西さんの指摘。「削減策を出したんやから、ええやないか」と参加者の笠原さん。彼も私も暑さと一日行動で質問がボケ始めている。八尾の飯庁舎から大西さんは実家に戻る。

今日の成果（八尾の削減案）と交通交通渋滞と暑さ負けで、藤井寺市と話し合いの時間に遅れてしまう。対応は市の自治振興課のみ。こちらの話だけになり、藤井寺で合流した麻野、小原

さんも「こら藤井寺は、八尾市のようにならへんで」と交渉を終えて、喫茶店で話す。笠原さんは「ええこと思いついた、〇議員や」といつもながらの変なひらめき。彼に任そうとなった。

《羽曳野市長と松原市に申入れ》
八月三日、羽曳野市と松原市と交渉の連絡が取れたので、事務局の篠宮さんと私、地元の笠原、小原さんとまず羽曳野市へ行く。福谷市長との「おは

熱帯木材の保全に関する意見書 (全会一致で可決)

今、地球規模での環境問題が世界で大きな問題となっている。

なかでも先進国による熱帯木材の乱伐は表土の流失等により森林再生を困難とし、生物種の絶滅の加速化や炭素循環の変化等により、地球上の生態系に悪影響をもたらす深刻なものとなっている。

また、開発途上国の生活基盤を失い、生存権も脅かされ、今や熱帯木材の保全は全世界における関心事となっている。

しかもこのまま有効な手だてを加えねば、1年に日本の面積のほぼ半分、約20万Km²が伐り取られていく状況にある。特に日本はその30%を輸入し、世界一の消費国となっている。熱帯木材の保全対策の確立は一刻の猶予も許されない状況である。

よって、藤井寺市議会は緊急の課題として熱帯木材保全にむけて下記事項を強く要望する。

記

1. 国連を中心とし、関係諸国とともに熱帯木材保全と回復に具体的施策を政府が取り組まれるよう早急に立案し対策に積極的に努めること。
2. 熱帯木材の輸入の削減を図ること。
3. 熱帯木材の消費抑制策を推進し、特に公共建築物における熱帯木材の使用削減を強力に進めること。

以上、地方自治法第99条第2項の規定により意見書を提出する。

平成4年9月18日

藤井寺市議会

よう対話」にのぞむ。

「緑が壊れていくのは良くないことだ。当市として木の大切さを知ってもらうために、緑化をどんどんしている。環境保全に熱帯林保護に取り組みたい」と福谷市長。しかし、『要望書』の回答日を過ぎても、羽曳野市の担当部局からの削減案や回答は来ない。

次いで松原市では、十一時前に地元の小森さん、久保さんも揃って、庁舎建設事務所所長の山本氏ら三名と会見。

松原市側は「六月議会で答えたように、新庁舎等公共建築物はなるだけ熱帯材を使わない方向に來てます。九三年九月着工の新庁舎は、当初に予定してまへんでしたが、市建設部の方針で熱帯材使用削減となりました。どれ程の量かは少し経てばはつきりします。」私達は、新庁舎のコンパネ使用削減策を松原市が出す前に話し合いをしたいと申入れ、松原市側も同意した。

《藤井寺も削減案、議会意見書採択》

九月一四日突然、笠原さんから電話が入った。「〇議員などに頼んでいた

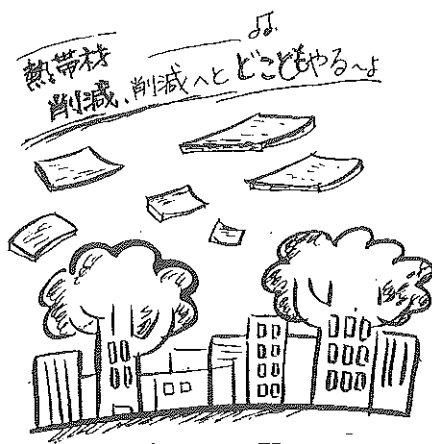
藤井寺市議会で『熱帯林材保全に関する意見書』が採択されるかも知れん。

藤井寺市の担当も来てくれて！」

一八日、地元の麻野さんを含め四名で藤井寺市へ行く。

「(都市建設部)設計段階で極力コンクリート構造物の二次製品の見直し及び鋼製型枠の使用について検討する。(特定政策推進室)新庁舎の建設については、本年度中に実施設計を完了し、平成五年度に建設工事を着工できるよう準備を進めている。熱帯木材の使用につきましては、本年度中の実施設計の中でも十分検討し、極力抑制できるように配慮してまいりたい」と文書回答。削減幅はまだだが、やったネ!

午前中に終えた市議会でも自民党が引っぱって、『熱帯林材の保全に関する意見書』を採択。この『意見書』で特筆することは、①熱帯材輸入削減、②消費を抑制し、公共建築での熱帯材使用削減を進める、と明確にした事だ。市役所を出て、みんなで話した事は、①地域住民と申入れる、②何度も交渉する、③市が発表、これが重要だと。



。小高茂さん(藤井寺・自民党市議)
今回の熱帯林問題は、資料や説明が参考になって取り組むことが出来た。藤井寺市として、新庁舎建設の問題も控えているので、イデオロギーを越えて全会派に賛同してもらえろと思ひ、提案した。九月一八日に全会一致で可決したことを契機に、熱帯林保全・地球環境の保全に更に取り組みたい。
。笠原英俊さん(ウータン・羽曳野市)
こまめに議員と話してきて、ここで効果があつたと思う。特に自民党環境派の元議長が動いてくれて嬉しかった。これは大変大きい事だ。やったぜ!!!
藤井寺市。

◆元氣もりもりアマゾン報告会

アマゾンに牛はいません。

いとうみさる
伊藤修二をむかえて……
(即折家)

去る8月11日、大阪・森の宮にて「アマゾン報告会」が開かれました。ウータンの顧問的存在、弁護士の大西裕子さんと、アマゾン在住の彫刻家・伊藤修（いとうおさむ）さんにそれぞれ話して頂きました。伊藤さんはアマゾンに5年在住、ブラジル人女性と結婚されていて、日本には個展の為（群馬県にて）帰国中です。

大西さんからは、初めてのアマゾンの印象（とにかくスケールが大きい!!アマゾン川の流域面積だけで、日本国土の20倍の）、インディオの村を見学した時の話（サラワクの先住民と比べても問題の根は深い。殺戮の歴史の激しさ、略奪の歴史の長さが影を落としていいる。経済の問題ももっと色んな国の思惑とシステムが絡みあっている。初めて見たアマゾンの先住民の生活はかなりシビアな場面に来ていると思う等）、ブラジル会議でのNGOの活動（日本のNGOも頑張っていた）、リオ宣言やアジェンダ21等が開発寄りになったのも、会議のメンバーを見ていればがっかりするに値しない「やっぱりな」といった風であった事・・・短時間ですが盛り沢山の報告内容でした。

伊藤さんはアーティストらしい情熱的な語りで会場を圧倒。5年間のアマゾン暮らしから見た現状を以下、再録してみました。

「自分がずっと住んでいた日本の歴史と、照らしあわせて見ていかないと。時間的経緯とか。イメージが湧かないと思うんですよね。アマゾン横断道路やダムなどの大型開発がされていったのは丁度日本の高度成長の頃。それから石油ショックの頃、一度止まって。世界経済の中でアマゾンがどう変わっていったか、という風に見ないと、ブラジルの国が勝手にアマゾンを壊していく、というふうになっちゃう。」



「今、日本のODAなんかで『開発、開発』と言われてますよね。で、そういう部分を単純に結び付けて（アマゾンの）破壊に日本が関与している、という風に直結しちゃう訳ですよね。でももっともっと複雑なシステムが有る訳ですよね。実は。だから、そういった流れ、みたいな物と、また皆さんが日本の国がどういう風に動いているかという事と、ブラジルの人がどう生きてきたかという事とを重ね合わせない限り、今の時点で保護だとか援助だとか、仲々見えにくいと思うんです。」

「そしてその時の民衆はどうだったか、その時の日本での皆さんの生活はどうだったかという事を、頭にちょっと思い浮かべて欲しい。その時あなたは何をしましたかという事と、ブラジルの民衆がその時何をしていたか、どういう意識を持っていたかという事をイメージできない限り、相見象だけ追っちゃう事になる。これは凄惨い厄災的な事だと思っんですね。」

「で、皆さん牧場がアマゾン（の自然）に対して非常にマイナスだと思ってる訳ですね。日本的に考えると『牧場を作って牛を飼う』為にアマゾンを破壊したんだ、という。こういう発想をすると思うんですけど、ウソです。牧場みたいな非能率的な事を、ブラジル人がやるはずありません。」

「まず政府から金借りる、で全部木を切る。木も売らない。燃やしちゃう。で、『はい、土地が出来ました』。道が通る。で、高くなるのを待つ訳です。……マナー——ゲ——ムなんです。アマゾンの破壊は。」

「企業対インディオだとかブラジル政府対インディオだとかより、もっと辛い構造に入っている（今の歴史状況は）。南のサンパウロやリオデジャネイロから食いつめて、貧乏な人・抑圧された人々が北のアマゾン部分に入る。で、北は昔から収奪され続けていた。そういう収奪された者同士が争う。もっと不幸な状況にある。」

「敵が見えないんです。見えなくなってきたというのは、対個人で、憎しみ合ったり殺し合ったりすることは出来るんです。でもそれが一体どういう事に依って起きるのかという所が、見えない。」

「本当は憎まなくてもいい人々と憎み合って、しかも殺し合いにまわって行くという。貧困になっていく構造というのは、一体どういう事なんだろう、という。そういう事と、じゃあ日本にいる我々と、どういう関係なんだろう、という。」

「先住民の問題を『先住民の問題』として考えてしまっているんだらうか。むしろもっと大きな部分での構造とか……環境問題も含めて、もう一回問い直して、ひとりのひとりがどううまきさていくのかを考えないと、どうしようもないのではないか。」

「丁度日本の国が高度成長を始めてどんどん……公害がそろそろ見え始めていた頃です。ブラジルに移住した人達も同じなんです。一生懸命ジャングルを切って、開拓して、土地を作ろうと頑張っているんです。世界中がそうだったんです。そういう事が判らないん

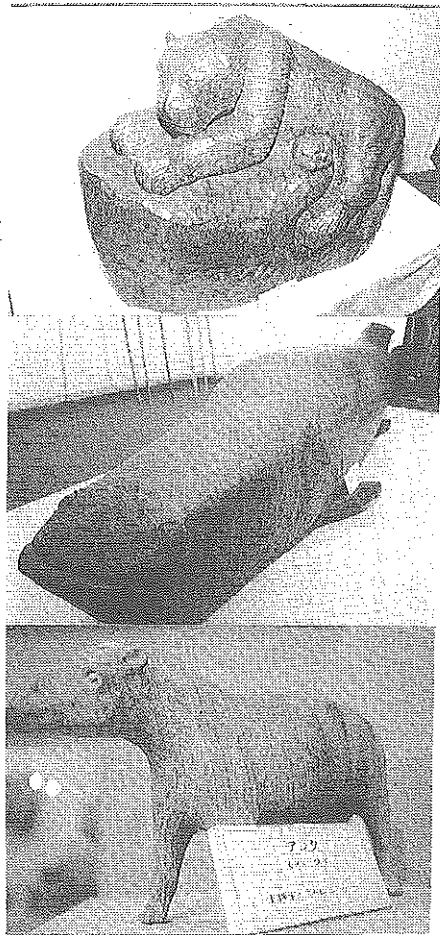


▲熱のこもったお話をされる伊藤さん。

です。これを見て某新聞社がですね、日系ブラジル人はアマゾンに入って森林破壊をしているって言ったんです。野焼きしているから、という只それだけの理由で。僕もその事に対して非常に腹が立った。『色んな形で棄民の政策があって、国に捨てられて、騙されて行った人もいる訳ですよ。もちろん一獲千金の人もいますよ。』(略)で、世界大戦の時には捕虜収容に遇って、戦後日本が高度成長した時にブラジルの経済がガタガタになって。こんど日本に出稼ぎに戻って来ると、差別に逢うという。」

「日系人達が一番最初にプランテーション作った。コショウのね。ところが同じ物を植えていくと、どんどん枯れていったりする訳ですよ。病気が流行ったりとか。で、駄目で駄目で色んな事やってって、最後は色んなもの植えてっちゃったから、混雑成林が出来ちゃったんですよ。殆どジャングルに近いような状態になった。今そういう所から採っている。その部分が非常にこれからの

▼伊藤さんの作品



ヒョウ91年

ピラニア91年

マント91年

熱帯林の永続的開発・・・のヒソト、初代アマゾンの農場の農場の姿じゃないかという事が、ヨーロッパ人の学者だとか熱帯林学者達が言ってる。」

「先住民の問題だとかアマゾンの問題を、自分達から遠い所（の問題）だと、絶対に考えないで欲しい。」

「国家間における民主主義というのはもうボロボロになっている。」

「『時間』が問題とはどういう事かという、環境問題を話す時に次の世代の事を考えて。（略）このままいけば明らかに悪くなる事は判っているんです。それもかなり近い内に、という事が判っている訳です。インディオだけじゃない。僕らも同じ状況にいるんです。ですから簡単に加害者と被害者の関係じゃなくて、加害者が被害者を保護するとか援助するとかいう関係じゃ、もう難しくなっている。問題の解決が。発想そのものが。それが日本に来て一番感じていた事なんですけど。」

「歴史はほとんど動いていっている、といった感覚で見えて欲しいんです。何か自分たちは此処にいて、先住民の人達がここにいてどうのこうの、ていうのじゃなくて、その人達も実際動いている。実際に何処に行こうかと考えている。我々日本人だって、どう行こうか考えている。どう考えていこうかという接点を見ない限り援助

だとか保護だとかないですよ。その部分を壊く大事にしてほしい。」

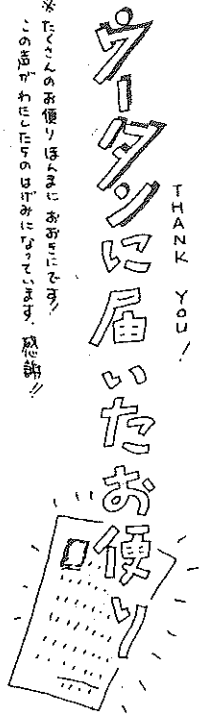
「アマゾンでいえばあの、原生林を守ろう、という言い方がありません。原生林というのは、永遠不変に固定された部分じゃないんです。原生林も進化・発展しているんですからね。（略）今、この瞬間にも一つの種が減びて、生まれている、そういう状況なんです。」

「無理して何かを作らないという事なんですよね。そこにあるものを、どう効率よく頂くか、その事を日系人も20年かかってようやくわかったという事なんですよね。（略）熱帯の、農業というよりは『熱帯林農業』というか、林業というか、そういう形になっていまして。それは、すごくいい方法だと僕は思います。」

「日系？世達のグルーブの製材所で、オガクズを肥料にして、お百姓さんに送ると、苗木を作るんです。苗木を又、製材所におくる。という形で、町起こしというのか村起こしというのか、そういう事もやっています。（略）樹が無くなれば食えなくなる事が判っているから（地元は根こそぎにしないけど）、ところが外から来た人達というのは採ればいい訳ですから（収奪になる）。だから地元の人の意見の意見を聞いていかないと、仲々難しいでしょう。という事です。」

「（都市にも）自然は沢山あるじゃないか。例えばここにアルミ缶がある。人間が作った物は一つもありませんよ。新しく。アルミってのは、これ鉱物です。土です。人間が作りました、なんて形を置き換えているだけです。プラスチック。大昔、微生物が死んだ、死骸でしょう。その、石油の部分を、色々置き換えただけでしょう。」

「何か新しい物を、作りましたか？一つも作ってないんだよね。皆さん自然無いて言うけど、そういう一つの流れが見えたら、プラスチックの一つでも大事にするでしょう。ここで、一つでも、あのジャングルから来た！と思ったらいとおもしろい！ありませんか？自然はここにもあるんです。見えなくされてるんです。」



* たくさんのお便りほんまにおおきにです。
このお便りにはお返事をさせていただきます。 感謝！！

「問題をどんどん細分化するんじゃないかって、もう一回全部洗い流して、もうひとつ、自分たちの地球人という部分で、もう一回振り返って立ってみなければ、仲々問題の解決は見えてこないと思うんです。」

「僕個人でいえば、援助されたり保護されたりするのは嫌いです。自分たちで解決していきたいと思います。金は無かったら、借ります。でも、貰いたくはありません。返す事は、当たり前でしょう。」

「事実というのは、皆さん知っていると思う。真実は仲々分からない。」

「日本にいる私達は、事実を知っている。でもその裏に隠されている真実とは何か。その真実が分かった時に、やはり世界の色んな問題の難しさに繋がる事だと思う。先ず、自分達の真実を見る目を作らなければ、どうしても向こう側の人、あるいは他の国の人と繋がるというのは、難しいと思うんですよ。」

「みどりを守る、と言う事は、実は自分の生き方・自分の国や、外人労働者の問題とか全部含まれている。」

「もう、国境とかそんな無いよね、この地球の中で僕らの家族や子供が、どう生きるかという問題。とても難しいと思う。でもこういった事をひとりひとりが考えていって時、初めて見えてくると思う。」

—— 現地で日系人のネットワークづくりを始めている、伊藤さん。永続的開発、というよりは共生できる農業（林業？）の話を含めて熱く語って頂きました。今後の活動をウータンでも強く応援していきたいと思えます。どうも有り難うございました。

(テープ起こし・文責／篠某)

- * 去る五月のシンポジウムでは大変お世話になりました。 (中略)
- * 建築家協会の「環境問題研究会」もただ今勉強会を月一回のペースではじめました。出遅れ気味の建築家連中も、徐々に前進しようと努力しています。これからも情報いろいろお教えください。
- 三澤文子
- * 堺市・神戸市と自治体キャンペーンの成果を紙上で見、堅実な前進を喜んでいました。誕生日ありがとう運動大阪友の会・向井千晃
- * 以前に会報を送って頂き、事務所にお伺いしようと思いがながら幾月経てしまいました。(中略) 表紙の絵、文中の文字ステキですね。
- 谷口登志子
- * ごぶさたしてしまいました。いよいよブラジルで地球サミットがはじまりますね。偉いさんたちが世界から集まる割には、成果が出そうにない会議になりそうですが、それより日本ではNGOの出番がいつも少ないことの方が気になります。
- 牛田 等
- * いつも 豊島の内容、貴重な情報ありがとうございます。ウータン」ありがとうございました。今後もよろしくお願ひします。 山本持嗣・紀子
- * 「ウータン」お送りいただきありがとうございました。大奮に読ませていただきました。 猛暑に負けないでがんばってください。 堂本 暎子
- * いっしょに、しのぎやすい季節となりました。「ウータン」をいつもありがとうございます。全国会議のあと、まだ活動らしきものをしていないことに何か無りを感じています。桐生ではまず実地調査から思いまして、調査を始めるようにしているところです。 紙幣や札のような形で使われているのり建築家の方々を中心にアンケートをしていき、その結果によって自治体に働きかけていきたいと思います。 これからもよろしくお願ひします。
- 鈴木 里子

◦他にも 福永一美さん、松下恵子さんをはじめ多くの方よりお便りをいただきました。どうもありがとうございました。

世界の森から ⑥ 森 ネパール・イカバイラブ村

「ネパールを見たい。」



◆ 植林ワークショップに参加して

塩尻昭枝(大阪・保善園々長)

今年の夏は、ネパールに行ってきました。

アジアの南発途上国の人々に、井戸を贈る運動を中心に活動している「アジア協会アジア友の会」が行っているワークショップのメンバーの一員としてのネパールです。このワークショップの目的は植林活動。私のホーの目的は、ネパールを見たい。

ボランティアとか援助活動とか国際貢献などという、高尚な志とはかなり落差のあるこの動機はネパールの3人の知人の存在と身近にネパール通(?)の人がいるせいかもしれないと思います。

大阪出発は7月26日。バンコクで一泊し、翌朝、タイ国際航空311便でネパールの首都・カトマンドウに入りました。

113人の避難者を出した墜落機と同じ便に、あの事故の4日前、搭乗していたということですが、もちろんこれを知ったのは、その後になってからです。——合掌——

無事、カトマンドウに着いた私達は市内のホテルに一泊したあと、2日間の移動日、休息日の1日を含めて8日回がワーク。

そして又、カトマンドウにもどって2日を過ごし、バンコクで2泊し帰国するというのが、大まかな日程でした。

植林のワーク地は、カトマンドウから南へ車で2時間程の「イカバイラブ村」。

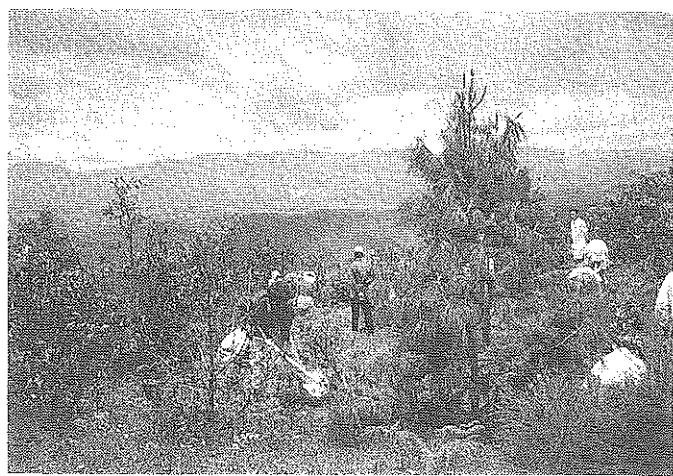
2時間といっても、日本のように舗装された道を走るのではありません。デコボコの山道をオンボロのマイクロバスで走るのです。標高2000mの村からは、カトマンドウの街は充分に見おろせる距離です。

日本から24名、ベングラデシュ2名、インド4名、そしてネパールからは10数名、国も職業も年令も違う者40数名のメンバーが8日間の共同生活を始めたのです。

村での宿泊先は政府の植林トレーニンング・センターとよ、こゝに一応、ゲストハウス。説明会を必ず現地に行きよ、こゝに

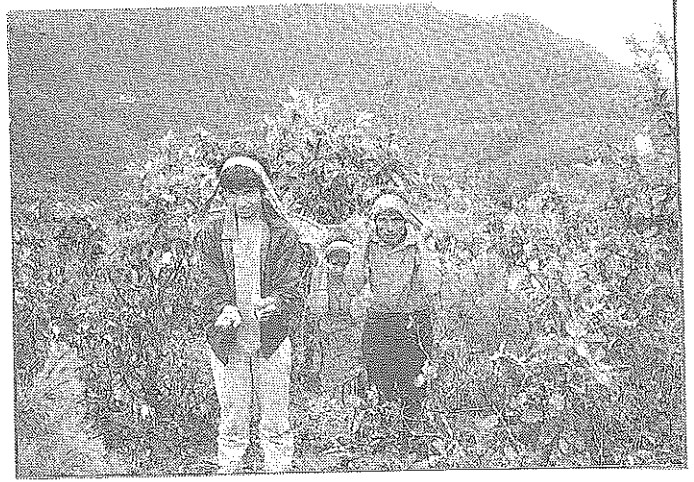
言われた荷物は、寝袋、シヨラフマント、虫除、軍手、長ぐつ又は直足袋。以上が示す通りのゲストハウスです。

出発前に散々おどがされて(?)いたのが、私達は眠るところがコンクリートの上でも、設備としてある水洗トイレが1ヶ所でも、水が出なくても、山、ヒルに少々かまれても、思った以上に快適な生活に思えました。



▲ メンバーによる植林作業 (松を植えている。数年前に植林されたもの) photo石側

▲ドック(か)をかつぐ住民



さて、植林作業は国
有林に松の苗を植える
ということだす。

みわたす限り山なの
に大きな木はほとんど
なく、輸出されたり、
村人の燃料として切ら
れていったようだす。

その上、5年前に山
火事があったところで
政府からも期待されて
の「植林」ということ
でした。

に——と誰もが思うことも、国民性や習慣、又そういった教
育が出来ない筈、国の事情もからんでくることのようなだす。
私たちが、ワイワイいって植える苗は三分の1も定着しない
ようだす。

雨期を避けるための植林とはいえ、植えるばなしでは育たないとい
うことなのでしょう。

ただ、こういって我々の行動をみた村人たちが、植林の大切さ
を少しでも認めてくれれば良いという意図もあるとのことだした。
メンバーの半数をしめる学生達は、木の成長を必ず報告して

ほしいとか、もつと村の人と交流したい、村の中でホームステイ
をしたかったとか、いろんな希望を見ることがあったようだすが、見
方を変えれば、これも私達の悲しい「驕り」ではないかと思え
てきました。

日本という国が戦前、戦後を遍しアジアの人達に対し何をして
きたかも、我々がアジアの国々を訪ねるときは知っておきたいと
あらためて思いました。

ともあれ、全くの素人集団による植林がネパールの人々にと
ってプラスになるのか、マイナスになるのか、答の出ない無責任
な私のワークキャンプでした。

(92年10月某日)

◇塩尻さんにとって初めての海外が全面的なネパール行になりました。

色々な思いを込めての帰国になったようだす。

塩尻さんの通う保育園はともユニークなところで子供たちに畑仕事
をさせたり、又、母年のチームが世界や自然をみつめたものになっています。
今まさに「アメリカ・森林・ネパール」として今年はいんターナショナルな
しかし、規定はきびしく、子供の保育よりも親の教養が重要だと
日々、悪戦苦闘されております。

がんばって下さい。

◎ワークキャンプについてのお問合せは

社団法人・アジア協会アジア友の会

〒550 大阪市西区江戸堀1丁目14-1 平和相互ビル7F

TEL. 06-4444-0587 まで

地球にむこい暮らし



なぜ牛乳パックの回収ーこむぼっく・大西明美さんに聞く

最近増え続ける紙パック。ビンの使用を消し去るのではと、不安になってしまふ。集めても集めてもきりのないパック回収。今回、牛乳パック回収を地道に取り組む方に話を聞きました。

・ウータン・奥村知亜子。

■ *牛乳パック回収を始めた動機は？

■ 牛乳パックの回収がブームになり出した頃で、始めは誰かがやればいいのになあと思っていたのが、それじゃ私も参加しようとして。やってみたら、誰かが引っぱってくれたらいいのにと思っていたのが、やりたい自分が中心になるうと思ふようになりました。やっているうちに仲間もでき、交流も深まり、自分やまわりの意識が変わっていくのが楽しく、今でも続いています。

■ *変わったこととはどんなこと？

■ 私は、もったいないという程度のノリで始めたのですが、ブームの中で始めた人も皆自分がやっている意味をそれぞれ見つけてきたと思います。

■ 最初ももったいないと感じた牛乳パックの存在そのものが、本来あってもいいものかと思えてきたのです。今ま

で当たり前のように使っていた紙についても、その使い方がそれでいいのかというふうに、自分たちの生活を問い直すようになりました。

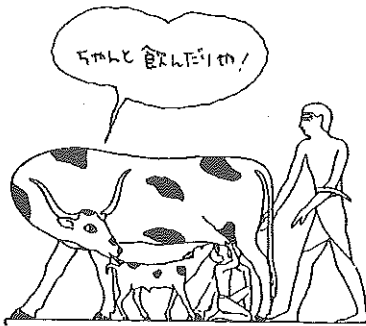
■ あって当たり前と思っていたものをリサイクルする中で、生活を見直し、無くてもいいと思うものが今のシステムの中では無くせないという自分たちの限界みたいなものをつかみながら、何が実践できるかを考えて動いています。

■ また、この大量消費を誰が支えているのか、同時代に生きる人々との関わりをひとりひとりが考えることで、紙の使い方が違ってくると思うのです。

■ *これからの方向は？

■ まずリサイクルされた物を使うことです。次に適量の物を使うことを実践してゆきたいです。他の地域で同時代

に生きる人々に思いを馳せることも忘れないでいきたいです。私としては、再生品をケチケチ、しみじみ使っていきたいものです。



牛乳の利用の原始的なあり方。

〔こむぼっく〕とは

一九九一年二月に結成。泉北生協組合員が始めた牛乳パック回収団体。生協が網羅する地域で主体的に回収を取り組む仲間の輪を作っている。

草刈り十字軍 若い女性大活躍



大きなかま、で下草伐採

友達増える「自分」発見

メンバーの3割近くに増加

除草剤を使わずかわりに、滋賀県高島郡朽木村にある「朝日の森」では、九日「いろいろな年代の人と知り合えるのが楽しい」。今年大きなかまで伐採する民間の自然保護団体「草刈り十字軍」(大井康行代表)のメンバーに、最近若い女性の参加が目立っている。真夏、下草を刈る作業に汗を流し、に汗を流す連襟感が好き。自然のなかにいると違う自分を発見できそうです。

「汗を流すとさわやか」「友達が増える」などの理由で参加する女子大生、主婦、学生、OLらが大幅に増加、今やメンバーの三割近くに。労働力不足に悩む山村の人たちに歓迎されている。

腰までのびた下草相手に奮闘する女性たち
 滋賀県高島郡朽木村で

「草刈り十字軍は一九七四年、除草剤の空中散布に反対する住民グループが富山県で結成。富山、奈良、高知、京都、奈良、西宮市などからやってきた。作業は午前八時から昼休みをはき、業務があり、夏休みに各地で除草作業を続けている。関西での問い合わせは、大井さん(0742・44・4836)へ。」

三千円。厳しい労働内容を考えると、文字通りの奉仕作業だ。

茨木市から来た高校一年生、米山明美さん(16)は「いろいろな年代の人と知り合えるのが楽しい」。今年二回目の同志社大二年生、中根めぐみさん(20)は「米谷裕子さん(20)は「一緒

阿部道(京都・教員)

木を蹴るとバサバサと落ちてくるカブト虫。露にぬれた草花。流れる汗にこころよい風。ヒグラシの声。たくさんの草や虫達が、こんなにもいるのだと改めて感じた。人間がいて自然があるのではない。自然があつて人間が共存しようとしている。道端の一本の花をさえ、私たちは大切にしなければならぬ。草刈りに来る人達は皆、様々な思いでやって来るけれど、森の中になると気付く。ゆったりとした気持ちになり、何か忘れ物をしてきたんじゃないかと。毎年そんな気持ちで参加している私です。

大沢佳奈(大阪高槻・会社員)

うだるような暑さの中で鎌をふるっていると、なぜこんな作業が終わってふり返ると、今朝は見えなかった木々が立派に立っている。そんな光景をみると「まあいいか」と思えてしまふのだった。「炎天下で肌にはシャツがへばりつく程汗をかくことがなくなりました。私にとって、忘れていたものを思い出した。そんな一瞬間であった。そして何よりも、普段の生活では決して出会うことのない人達と知り合えたことがこの夏の最大の成果だった。」

●ウータン前号でご紹介頂いた様に、関西草刈十字軍は8/9~16迄滋賀県、朽木村で作業を行いました。今回の参加者は29名、御陰様で怪我無く全日程を終了しました。

今回参加された方に感想文を書いて頂きました。

環境問題がクローズアップされた今、反響は段々大きくなってきました。十字軍としても今後の展開を慎重に考えて行かなければ、と思っています。

読んで頂いて興味を持たれた方は、大井宅へご連絡下さい。(平日19:00以降)

最後に紙面をお借りしてウータンの方始め御協力頂いた方々に御礼申し上げます。

大井 康行

*ウータン、初めての不格好のコンサートです。きこ下さいネ!

今年は10月19日から熱帯林園開園が始まります!

熱帯林を守れ! '92世界熱帯林週間記念イベント

アコースティック

ACOUSTIC JUNGLE NIGHT

ジャングル・ナイト



ILLUSTRATION BY TROMA

森繁三郎さんの木版画を5色刷りでTシャツに印刷しました。MSLサイズ。長袖2,800円。半袖2,500円。必ず。

森繁三郎さんの木版画を5色刷りでTシャツに印刷しました。MSLサイズ。

ステキな

10月17日(土) (開演) 5時半 (開場は5時)

【会場】江坂ブーミンホール

(地下鉄御堂筋線、江坂駅下車 徒歩3分、東急ハンズウラ)

【チケット】2000円 (前売、当日とも) ← 安い!!!

【出演】(第1部) 講演……………南 研子 (RF・熱帯森林保護団体日本支部代表)

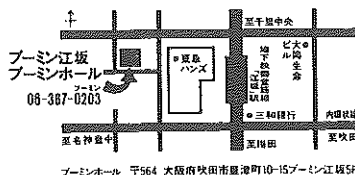
「私の見たアマゾン——インディオの部落を訪ねて」

◆イギリスのロックシンガー、スティングの援唱により結成された団体。アマゾンのインディオ支援と保護区確立のために活動している。この6月にアマゾンを訪れた時の様子をスライドを交えてお話しいただきます。

(第2部) コンサート……………中川イサト (Acoustic Guitar, vocal)

金森幸介 & The Mellow (Acoustic Guitar, vocal)

◆大抵では知る人ぞ知るお二人に協力していただき、ステキな明とアコースティック・ギターを聞かせてもらいます。



ブーミンホール 〒564 大阪府吹田市東豊町10-15ブーミン江坂5F

◆尚、当日会場ではアマゾンやサラワクの写真/パネル展示やTシャツ、資料などの物品販売も行ないます。

【主催】ウータン・森と生活を考える会

【問い合わせ】phone 0720-81-4939 永田、0722-52-0505 西岡まで

バックのギター演奏が聞けます。必見!! ステキな明とコーラスでステキな夜に……。

■森 喜久雄 (もりきくお)

画家。

1944年神戸市生まれ。1965年留学の為渡米。カリフォルニア美術 スカラシップ獲得。

カリフォルニア・インスティテュート・オブ・アート (CALIFORNIA INSTITUTE OF THE ARTS) 卒業後、

大阪とロスアンゼルスにギャラリーを開設すると同時に作家活動。

ロスアンゼルスと大阪にて個展開催。'84年に帰国後、絵画と壁画を中心に活動。

大阪在住。

■アジアを旅し始めて、自然や、その恩恵に生きる人々に接し、

自分の中にある靈感を呼びおこされスケッチを始めました。

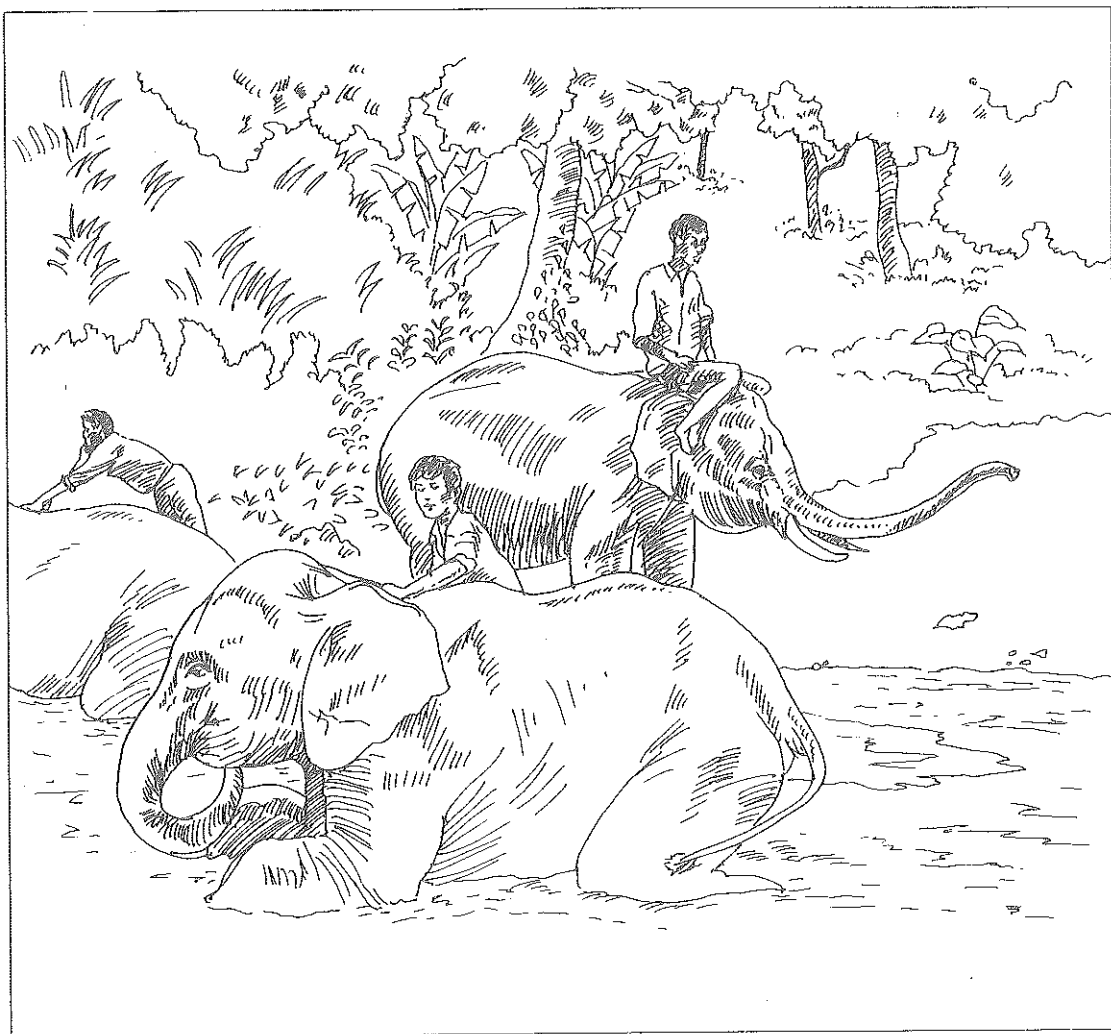
そこには日本の街の現実とは異なる、まるで夢をみているような

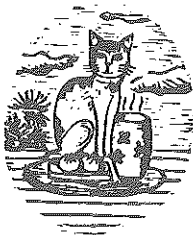
世界がありました。風景、静物、人物は突然スケッチの対象となり、

描くというよりは描かされていたといった方が適切で、その絵に

色を入れることにより新しい光とエネルギーが蘇る。

Kikuo Mori





井下 祥子

会 計 だ り

「シンポジウムの賛同金を送ってくださった方」

- 高田利恵 小西妙子 熱帯林行動ネットワーク愛媛 畑健次郎 加賀瀬みどり
- 大阪テッソ水俣病を告発する会 パンダクラブ兵庫 城戸崎雅美 松野明久

以上6月から8月末まで会費、カンパを振り込んでくださった方です。いつも変わらぬアツイご支援ありがとうございます！

「8月末までに89年度会費・カンパを払ってくださった方」(敬称略)

- 牛田等 誕生日ありがとう運動大阪の会 児玉かずみ 野見山健一 三澤文子
- 松永敬子 熱帯林行動ネットワーク静岡 中西真佐子 雑賀佳陽子 鶴川まさ
- 藤井清 高田利恵 五味義明 谷口登志子 小野

* 何度も振り込んでくださった方もあり、本当に感謝！です。(漏れた方がありましたら、お許しください)

OCTOBER

10・17(土) 5時半～

◎ 江土坂 プレミン・ホール (地下鉄新大塚駅) 江土坂駅前

HUTAN

ACTION

SCHEDULE

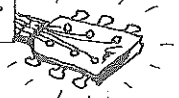
熱帯林を守れ！'92世界熱帯林週間記念イベント

アコースティック

ACOUSTIC JUNGLE NIGHT

ジャングル・ナイト

講演とコンサートの
のタブー……
(本紙14Pを
ごらん下さい。)



NOVEMBER

11・8(日) 2:00PM～

◎ 「キングダー・ホーム」 飯田ビル5F 阪急宝塚線「庄内駅」下車

SAVE RAINFOREST CONCERT



【出演】19/8 ガイヨ (サンバ・ブラジル音楽)

◎ 19/8-カッション、ギター、ボカルの4人のグループ。小さなスペースを中心にLIVE活動が盛んな「19/8 ガイヨ」、19/19の音楽を踊りまわしてみませんか！ 楽しいぞっせ！

【料金】1,000円 【問い合わせ】06-841-8221 井下まこ(夜間)

11・20(金) 6:30PM～ 【場所】アピオ大坂(予定) (JR森宮下車西へ徒歩)

「マレーシアの公害被害住民の声を聞こう！」

【アピオ】 ジャバラン医師と住民代表(予定)

◎ 皆さんもうご存じのARE 事件裁判の関心の今後を話します！

【主催】ARE 公害裁判を闘う実行委員会

【問い合わせ】06-945-9212 原田、0722-52-0505 奥村まで(夜間)

11・28(土)～29(日)

京都・法然院 5:30現地集合
Tel.075-771-2420

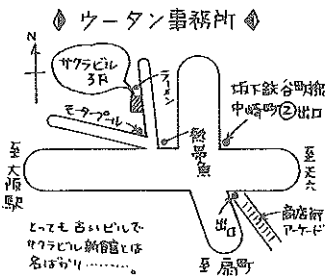
「ウーテン合宿」 最新マワク報告とムササビ観察会

◎ 10度目のマワク行にむけてムササビをゲストにむかえての報告と日夜秋のお寺の庭をめぐらすムササビを見よう！(ホントかいな！)

【申し込み】宿泊、食費として4000円必要とするので 0722-52-0505 西岡までご連絡を 11/21 締切です。

TEL. 06・3712・1561まで

ウーテン定
例会は第2、
第4火曜日午
後7時より
自然連合事務
所にて行っ
ております。



皆さん、元気でマワク？
かたいぼっかりの活動、つかれま
へんか？ 何をやってもらえてく
れる人は同じ顔ばかり、ただ移動
しとるだけ……
こんな想いは他のNGOもいっしょ
かと思ってしまうけど。かわらか頭
でかわらぬい事やろうと始めてコ
ンサートをやります。音楽まよ
ながら、少し考えるきっかけを
くれたらうと思っています。
10月17日、11月8日 時間があ
れば是非足をはこんで下さい。
たのんまっさん！

HUTAN

